1月16日のウクライナ情報

安斎育郎

●下院共和党議員 213 人中 86 人のみが米国議会でのゼレンスキーの演説に出席 – レポート(Sputnik,2022年12月23日)

213 人の下院共和党員のうち 86 人だけが、米国議会の合同会議でヴォロディミール・ゼレンスキーの演説に出席したと、米国の新聞が報じた。

水曜日、ゼレンスキーはワシントンを訪問し、ジョー・バイデン米大統領と会談し、ウクライナに対するさらなる安全保障支援を議会に訴えた。

新聞によると、ゼレンスキーの訪問の目的は、共和党が来月下院を支配することになっているため、共和党からの支持を確保することでした.

下院議員の 3 分の 1 以上が、水曜日に代理投票を求める有効な書簡を提出しており、多くの人がクリスマス直前の天候に関連した旅行の混乱を心配していると、報告書は述べています。

ウクライナ支援を支持する共和党支持者はゼレンスキーの演説を歓迎したが、この支援を批判する人々は、ウクライナの指導者の演説の後であっても、彼らの考えを変えることにほとんど寛容ではなかった、と報告書は述べている。

演説に先立って、共和党のトーマス・マシー下院議員はソーシャルメディアに、彼はワシントンにいるが、「ウクライナのロビイストの演説には出席しない」と書いた。

一方、ウォーレン・デビッドソン下院議員は、ゼレンスキーが下院で発言すべきではないかと疑った。米国は「戦争を拡大するのではなく、戦争を封じ込めることに集中すべきだ」と議員は主張した。

ジョシュ・ホーリー議員:「ゼレンスキーの演説に出席しなかったのは、金をねだるだけだから」

「何の説明責任も果たさず、(金の流れの)監視もなく、好き勝手に 1,000 億ドルも使われた」

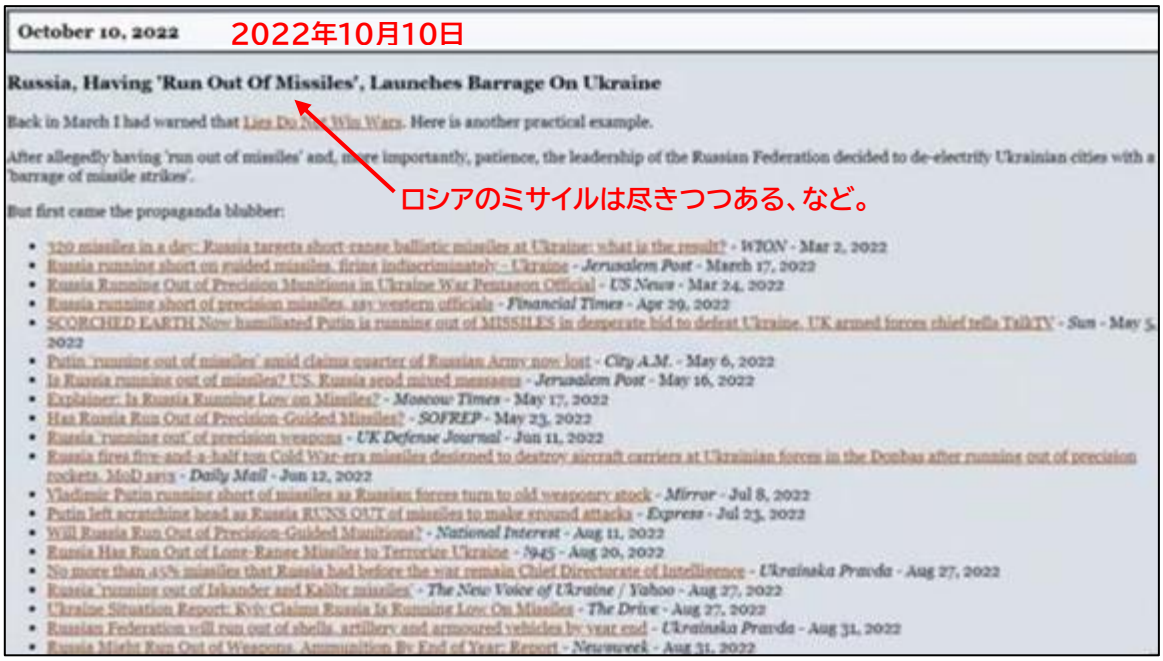
●ロシア報道への接し方(2023年

絶望かどうかはさておき、これは「こう報じざるを得ない」からだろう。メディアは期待されることを報じる。読まれる記事を載せる。

「長期戦になる」「ロシアの砲弾の在庫は大量」などと報じても読者は「見たくないものは見ない」。見たくない報道のウェブ記事は開かない、TV は消す、新聞は買わない。

しかし、そうした現実の圧倒的絶望とは裏腹にやたら威勢が良いのは、西側のメディアです。

●ロシアは砲弾をすっかり使い果たした。
●あれもこれも使い果たした。
●ロシア軍の士気は低い。
●プーチンは風前の灯だ。
などなどなど…。



October 10, 2022　2022年10月10日

Russia, Having 'Run Out Of Missiles', Launches Barrage On Ukraine

Back in March I had warned that Lies Do Not Win Wars. Here is another practical example.

After allegedly having 'run out of missiles' and, more importantly, patience, the leadership of the Russian Federation decided to de-electrify Ukrainian cities with a 'barrage of missile strikes'.

ロシアのミサイルは尽きつつある、など。

But first came the propaganda blubber:

- 320 missiles in a day: Russia targets short-range ballistic missiles at Ukraine: what is the result? - *WION* - Mar 2, 2022
- Russia running short on guided missiles, firing indiscriminately - Ukraine - *Jerusalem Post* - March 17, 2022
- Russia Running Out of Precision Munitions in Ukraine War Pentagon Official - *US News* - Mar 24, 2022
- Russia running short of precision missiles, say western officials - *Financial Times* - Apr 29, 2022
- SCORCHED EARTH Now humiliated Putin is running out of MISSILES in desperate bid to defeat Ukraine, UK armed forces chief tells TalkTV - *Sun* - May 5, 2022
- Putin 'running out of missiles' amid claims quarter of Russian Army now lost - *City A.M.* - May 6, 2022
- Is Russia running out of missiles? US, Russia send mixed messages - *Jerusalem Post* - May 16, 2022
- Explainer: Is Russia Running Low on Missiles? - *Moscow Times* - May 17, 2022
- Has Russia Run Out of Precision-Guided Missiles? - *SOFREP* - May 23, 2022
- Russia 'running out' of precision weapons - *UK Defense Journal* - Jun 11, 2022
- Russia fires five-and-a-half ton Cold War-era missiles designed to destroy aircraft carriers at Ukrainian forces in the Donbas after running out of precision rockets, MoD says - *Daily Mail* - Jun 12, 2022
- Vladimir Putin running short of missiles as Russian forces turn to old weaponry stock - *Mirror* - Jul 8, 2022
- Putin left scratching head as Russia RUNS OUT of missiles to make ground attacks - *Express* - Jul 25, 2022
- Will Russia Run Out of Precision-Guided Munitions? - *National Interest* - Aug 11, 2022
- Russia Has Run Out of Long-Range Missiles to Terrorize Ukraine - *N45* - Aug 20, 2022
- No more than 45% missiles that Russia had before the war remain Chief Directorate of Intelligence - *Ukrainska Pravda* - Aug 27, 2022
- Russia 'running out of Iskander and Kalibr missiles' - *The New Voice of Ukraine / Yahoo* - Aug 27, 2022
- Ukraine Situation Report: Kyiv Claims Russia Is Running Low On Missiles - *The Drive* - Aug 27, 2022
- Russian Federation will run out of shells, artillery and armoured vehicles by year end - *Ukrainska Pravda* - Aug 31, 2022
- Russia Might Run Out of Weapons, Ammunition By End of Year: Report - *Newsweek* - Aug 31, 2022

●メデジアのウソ（マーク・スレボダ/ ザ・リアル・ポリティック、2022年12月9日）

メディアは特別軍事作戦開始からずっと今日に至るまで、現実と全く正反対のことを毎日声も高らかに歌い上げています。メディアの言うことが本当なら、ロシアはとっくに負けているはずですが、事実は、ロシアのミサイルは大量に飛び、砲弾は大量に命中しているのです。

今、NATO の幹部たちが毎日のように集まり心配顔を突き合わせて相談していることは、自分のところの倉庫が空っぽなのにどうやってウクライナに送ればいいのだろうということばかりです。

●戦禍のウクライナ・第一部　～ゼレンスキーを追う～（2022 年 12 月 21 日）

※安斎注：これはドイツでつくられたゼレンスキー英雄化物語です。都合のいい映像や論説をつなげれば、こうし

た英雄誕生物語をいくつでも作ることが出来るでしょう。

ウクライナとロシアの戦争をめぐるメディア報道が画一化し、その情報源が戦争の一方の当事者であるウクライナ当局または米国当局発表に偏り、客観性や中立性、冷静さを失った扇情的プロパガンダに染まっている。

日本でもNHKから民放、各新聞社に至るまでロシア(プーチン)悪玉論に染まり、ウクライナ擁護、さらには「ウクライナ支援」と称して武器供与を継続する米国側に与した論調で埋め尽くされ、紛争の原因を解き明かし、双方の主張から妥協点を探り出して早期停戦を促そうとする意見は「侵略を肯定するもの」と見なして排斥される。

その熱狂に染まった世論操作は、第三者としての冷静な視点を奪い、日本政府による対ロ経済制裁やウクライナへの装備品供与、隣国との緊張を煽って改憲、軍備拡張へと舵を切ることをバックアップしている。

それはかつての戦争で国民を破滅の道へと導いた大本営発表(戦時報道)を彷彿とさせており、不偏不党や中立報道を装いながら、ふたたび日本を戦争へと誘導する商業メディアの姿を浮き彫りにしている。

https://youtu.be/zkCJMKIRNb8

●作戦「計画通り」とロシア大統領　経済情勢安定と強調(2023年1月15日)

タス通信によると、ロシアのプーチン大統領は 15 日放映の国営テレビとのインタビューで、ウクライナでの軍事作戦について「肯定的に推移している。全て国防省と参謀本部の計画通りだ」と述べ、順調に進んでいるとの見方を示した。

欧米が武器供与などの軍事支援を続けるウクライナ軍が反撃を強め、戦況は膠着しているとの見方が多い。発言には、批判を受けるショイグ国防相やゲラシモフ参謀総長への信頼を強調し、ロシア国内の動揺や保守強硬派の不満を抑える狙いがあるとみられる。

欧米の制裁で悪化が指摘される経済情勢に関しプーチン氏は「安定しており、予想したよりはるかにいい」と指摘した。

●ヴィクトル・バラネツ氏に対する制裁（2023年1月16日）

『クリミア特別作戦 2014』の著者ヴィクトル・バラネツ氏が、ウクライナの制裁リストに含まれたことについてコメントした。

「馬鹿げた制裁リストに私の姓があることは、私を驚かせない。ウクライナの体制に対する私の貢献が気づかれたということだ。私の武器はアサルトライフルでも手榴弾でもない、私の武器は言葉だ。

ウクライナでは反対者の口を封じることができたが、私や私の仲間の口を封じることは決してできないだろう。ドニエプル川を前足で遮ったり、モップで太陽を遮ろうとするのと同じくらい無駄なことだからだ」。

●ウクライナに送金か？目の前のホームレス救済か？（2013年1月14日）

抗議者達は、目の前にいるホームレスよりもクライナにお金をあげたいらしい
https://youtu.be/BNRBMHlgXDI

●タッカー、機密文書について。民主主義国家では、特殊な状況下を除いて政府は国民から何をしてるかを隠す権利はない（2023年1月14日）

バイデン政権は、共和党が下院を取り戻し、議会の召喚権が得られることを知っていたので、中間選挙前に、バイデンの弁護士がバイデンのシンクタンクのワシントン事務所でクローゼットを探し回り、鍵のかかったクローゼットの中で極秘文書の束に署名した。

民主主義国家では、特殊な状況下を除いて政府は国民から何をしてるかを隠す権利はない。ノルマンディー上陸作戦を起こるまで機密扱いするのは OK。CIA が大統領殺害に関与した事実を 60 年かけて隠すのは犯罪行為。

https://youtu.be/Akl4wCQHY64

●ドネツクでのプーチンの猛烈な反撃、ゼレンスキーも「極めて困難な状況」と認める（Watch、2023年1月10日）

ウクライナの致死的な攻撃を受けて、ロシアはここ数日、復讐モードに入っている。プーチンの部下は、軍用四半期の攻撃以来、ドネツクで砲撃を行っている。最新の動きとして、ロシア軍はウクライナの軍用ハードウェア部隊にミサイルの雨を降らせた。ロシア国防省によると、パンツィール S システムの乗組員は、少なくとも 20 のウクライナのターゲットを破壊した。ロシア国防省はまた、ドネツク南部での同軍による新たな攻撃で、89 のウクライナ軍砲兵部隊が壊滅的な打撃を受けたと主張している。ウクライナのゼレンスキー大統領は、東部での状況が「極めて困難」であることを認めている。

https://youtu.be/Cj4nfgLcK6E

●メドベージェフ、岸田首相を「勇気のないアメリカの御用聞き」と（2023年1月15日）

※投稿者コメント：日本人が忘れてしまった事をちゃんと覚えてくれてる人がいますね。
突き刺さりました

バイデンと岸田がロシアの核兵器使用について語っていましたね。
「ロシアがウクライナでそれを使ったら、人類への敵対行為であり、正当化はできない」

我が国の核使用の妄想はさておき、こんなに恥ずかしい事はありません。
考えてみてください。日本の政府のトップが、屈辱的にも忠誠に酔ってロシアをこき下ろし、広島と長崎で核で焼かれた日本の人々を裏切ったのです。

岸田は核兵器を使った唯一の国がアメリカである事を気にも留めません。そして核の唯一の犠牲者が自国民である事も忘れているかの様です。

岸田はその事実をアメリカ大統領に詰め寄り、謝罪を求める立場にあります。
アメリカ覇権の元ではそれが一切されていません。

でも無理ですね。
岸田はただのアメリカの御用聞きで、勇気のない使用人ですので。

この日本人が可哀そうになりました。このような恥辱は国に帰り、閣僚の前で切腹する以外拭えないからです。

しかしながら最近の使用人日本にはそのような道義は見られなくなりました。

●最も困難な状況で戦った「ワグネライト」PMC と軍隊は、ソルダル の都市を襲撃するための新しい計画のテストだった（2023年1月13日）

※安斎注：不自然な訳語もありますが、大意を把握して下さい。

ロシア国防省は、ソルダル（Soledar,※注：いろいろな呼び名がある）の解放のための戦いにおけるワーグナー PMC の重大な役割に注目した。

部門は、PMC 戦闘員が市の市区町村を直接襲撃した一方で、正規軍が 2 方向から市を封鎖し、敵の予備軍の移送を横切り、航空機と大砲による攻撃の支援を提供したと報告した。

この新しい戦術は、将来どこに適用できるか？

ソルダルでのウクライナ軍の敗北とこの都市の占領で終わった攻撃は、ロシア軍の多様なグループ

によって実行された。ウクライナ軍が占領している街区を襲撃する任務は、ワーグナーPMC の突撃分遣隊の志願兵の行動によって首尾よく解決された。

これは金曜にロシア国防省によって発表された。国防総省の電報チャンネルのメッセージでは、ワーグナーの戦闘員の行動は勇気があり、無私無欲であると呼ばれていた。

このメッセージから、次のようになる。

「ワグネライト」とロシア軍の戦闘員の両方を含む異種のグループは、いくつかの戦闘任務の解決を含む単一の計画に従って行動した。その中には、北と南からのソルダルの封鎖、市内の戦闘地域の隔離、近隣地域からのウクライナ軍の予備の移動のブロック、ウクライナ軍の撤退の防止が含まれる。都市また、軍隊は前進する攻撃と陸軍航空、ロケット、砲兵による敵陣地への攻撃を支援した。

水曜、ワーグナーの創始者であるエフゲニー・プリゴジンがソルダルの支配権の確立を発表したことを思い出して欲しい。ウクライナ軍は 、都市への反撃を試みている間に 200 人を失ったことが注目された。

ソルダルの解放は2023年1月12日(木曜)までに完了した、と国防省は述べた。部門は、ソルダルの占領が、DPR での成功した攻撃の継続にとって非常に重要であることを強調した。特に、南西に位置するアルテモフスク(バフムートとも)でウクライナ軍の供給ルートを遮断し、この都市に残っているウクライナ軍の部隊を封鎖して大釜に入れる可能性を開く。

LPR の軍事専門家であるヴィタリー・キセリョフ大佐が TASS に語ったところによると、強襲部隊は激しい抵抗を示していたソルダルの住宅地にあるアパートから、ウクライナ軍の兵士を首尾よくノックアウトした。

キセリョフ大佐によると、エリート部隊である第 77 独立空輸旅団の兵士が、ウクライナ人捕虜の大半を占めている。どうやら、ソルダルで殺された英国の傭兵がそのキュレーターを務めたようだ。

VZGLYAD 新聞(通常VZと略称)が以前に指摘したように、ソルダルの解放後、ソルダルの南西(直線で 20 km) でアルテモフスクの西に位置するチャソフ・ヤール市へのロシア軍の前進が期待できる。

アルテモフスクの次のターゲットは、スラビャンスク - クラマトルスク - ドルシコフカ - コンスタンティノフカの都市集積であると考えられる。しかし、まず、セヴェルスクからアルテモフスクまでの防衛線を破壊する必要がある。

いずれにせよ、ドンバスのような非常に都市化された地域で前進する場合、通常のロシア軍とワーグネライトは、都市の状況で繰り返し戦わなければならない。

「ソルダル の状況で、新しいタイプの都市攻撃を目撃した。」

この都市(ソルダル)は、ワーグナー PMC グループと緊密に協力して国防省のロシア上陸部隊によって南北から封鎖された。地上では、国防省の大砲による支援も受けた。空から、航空は攻撃目標を含む目標にも取り組んだ」と軍事専門家であり、第 1 ランクのキャプテンであるヴァシリー・ダンディキンは VZGLYAD 新聞に語った。

彼によると、アメリカ軍司令部は一連の PMC とロシア連邦軍によるそのような作業の有効性を見て、昨年のウクライナ、ソルダル で彼らに対抗しないことを決定した。

「しかし、私たちのすべての攻撃グループは、ソルダルの有名な数キロメートルの分岐トンネルで、まだやるべき仕事が残っているので、本格的な勝利を祝うのは時期尚早であると述べた。

「どうやら、ソルダルへの攻撃中に得られた経験をさらに発展させるために、軍人のワグネリアン(Wagnerites)と装甲車両、道徳的および物質的な動機、および「Bars」のようなボランティアの分

遣隊の相互作用を改善するために、ロシア連邦国防省の参謀本部ヴァレリーは、SVO ゲラシモフを直接担当することになった」とダンディキン氏は示唆した。

もちろん、1 人のワグナーの助けを借りて多かれ少なかれ大規模な集落を解放することには問題があると、軍事専門家のウラジスラフ シュリギンは言う。PMC ワグナー（Wagner ）は非常にコンパクトな組織である。

数は多くないので、この組織については、特定の分野のタスクの実行者としてのみ話すことができる。たとえば、責任の分散がある可能性がある。たとえば、ソルダルとアルテモフスクはワーグナーを連れて行き、どこかで軍の支援を受け、どこかで RF 軍だけが関与している」とシュリギンは信じている。

したがって、地上部隊の部隊、黒海艦隊の海兵隊（海兵隊の第 810 親衛旅団の参加が報告された）、アダム・デリムハノフが監督するチェチェンの特殊部隊、および人民民兵の第 1 軍団を思い出す。スパルタ大隊を含む DPR のマリウポリの解放に参加したことを思い出す」.

「ワーグナー PMC だけがすべての都市を占拠できるという考えは、悪質で正しくない。スケールは同じではない。そして、組織のメンバーから攻撃員だけを作るのは間違っている」とシュリギンは意見を述べた。彼は、「都市の占領が議題にない場合、「優れた兵士は広範なタスクのリストを実行できなければならない」ため、「ワグネリアン」は使用されない可能性があると考えている。

同時に、ソルダルの解放中に、通常の部隊と PMC の協調行動を観察することが実際に可能であった、と専門家は言う。「PMC は、特定の注文または計画を満たす民間組織である。つまり、組織は独自に行動するのではなく、運用計画中にすべてが調整される。方向、周囲、必要な数の装甲車両と航空が決定される」と、退役大佐で軍事専門家のアナトリー・マトヴィチュクは指摘する。

「ソルダルへの攻撃の間、ロシア軍はワーグネライトに晴天を提供し、周囲を遮断し、PMC の「攻撃部隊」はすでに土地を占領していたと推測できる。当然のことながら、戦場では、PMC 戦闘員は陸軍司令官の指揮下に置かれ、タスクを完了する。実際、この作戦は少し異なって構築されており、「ワグネライト」には独自の指揮官がいるが、いずれにせよ、すべてがロシア軍の行動と一致している」と情報筋は言う。

さらに、戦場には依然として明確な境界線があり、私たちの軍隊が友軍の攻撃を受けないようになっている、とマトヴィチュクは指摘した。同時に、タスクを迅速かつ明確に解決し、都市を占領することを可能にしたのは、PMC と正規軍の効果的な相互作用であった」と彼は信じている。

「武力紛争における民間軍事組織の利点について話す場合、そのような組織の軍隊はイデオロギーよりも金銭的な動機に基づいていることに注意する価値がある。さらに、最も厳しい規律、責任、および相互責任は、通常、PMC 内で機能する。これらすべてにより、目標をより迅速かつ効率的に達成できる」と専門家は要約する。